

未

野

木野通信

Kino Press No.51

Kyoto Seika University

京都精華大学

木野通信 第51号 2010年12月15日発行
 京都精華大学入試広報部広報課
 〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137
 TEL 075-702-5197

「冬」入江洋史（洋画コース 205P007）

けんど、龍馬ぜよ。

学長◎ 坪内成晃 ʒsubouchi Shigeaki

未

来を正確に予測することはできない。しかし過去を学ぶことで未来を育むことはできる。それが時間というものの性格だ。

少し食傷ぎみだが、今年の日本は「龍馬伝」で沸いた。カメラマンになった卒業生が仕事でずっと福山雅治を撮っている影響で、ミーハーの私は福山ファンとなり、毎週テレビで大河ドラマを愉しんでいる。淡い緑が際立つ色彩。家屋での俯瞰でみせる群像シーンは「縮み文化」の遠近法。多用される海の画面は鬱積した身分からの解放と異国への憧憬。その映像と演出には希望という未来がみえる。

本学が誕生したのは1968年。1867年の龍馬暗殺のほぼ100年後という歴史の偶然もあって、その年も司馬遼太郎の「竜馬がゆく」が同じくテレビドラマで大ヒットした。当時の高度成長期にあって、ライフスタイルが急変していく中、幕末維新の激動期に彗星のごとく現れ日本を切り開いた坂本龍馬は、その後の日本を大きな枠組みで捉えることができる待望のヒーローであった。

黒船来航のような衝撃はないけれど、先行きが見えず皆がこのままではまずい、と思っている意味では、幕末と現代は通じる。いま誰もが誰かに世界を変えてほしいと考えている。しかし、細かい情報処理での舵取り役を待望しているだけでは「なんちゃ生まれん」。そこには長い時間の筋道を見つける大きな力がある。

19世紀の後半、日本人は世界史の中で創造的な道を歩んだ。維新は江戸時代の末に大きな未来をもっていた人間がいたことを教えてくれた。33才で生涯を終えた龍馬から学ぶことは、100年後を見据えた大局的な世界観であろう。

通

信

Special Issue

就業力を強化する、表現者育成プログラムが始動

文部科学省の平成22年度大学改革推進等補助金（大学生の就業力育成支援事業）に、京都精華大学の「職業的実践力を有する表現者育成プログラム」が選定された。

これは、学生の卒業後の社会的・職業的自立が図られるよう大学の教育改革を国により支援するもの。表現を教育する本学の特性を活かし、表現者にとって新しいかたちの就業支援をめざす。

京都精華大学は「表現の大学」ならではの、社会的に通用性がある力を持った表現者の育成に積極的に取り組んでいく。

初めから就職だけを目的にするのではなく、学生の興味・関心に沿った表現者としての専門性に、職業的実践力を加えることで、長期的な視野からキャリアを俯瞰し、理想を実現するための就業力の育成を大学全体で支援する。

文部科学省の中央審議会答申では、キャリア教育を教育課程の中に位置づけることが挙げられているが、本学でも正規カリキュラムの中に科目を設けるほか、産学連携プロジェクトなど課外での活動も増加、学内組織も構築し、キャリア支援を拡充させていく。

カリキュラムの再編

表現力を社会的に展開するために、企画立案とプレゼンテーション・プロデュース・マネジメント・著作権といった、クリエイティブ制作における経済・経営・法律などに関する知識やビジネス手法を学ぶための関連科目群を「クリエイティブ・ビジネス・スクール」と称し、体系化された正規カリキュラムとしての新

設を計画している。これは今年度デザイン学部ビジュアルデザイン学科に新設された「デザイン・ビジネス・スクール」を展開させ、全学対象に開講することで、表現力を社会のなかで活用する能力と、職業として成り立たせる力を育成する。

サテライトスペースの活用

また、8月にオープンした四条烏丸のサテライトスペース「kara-S（カラス）」を活用し、企業と連携したプロジェクトやインターンシップを積極的に行い、その成果を積極的に発信する予定だ。社会的評価を得る機

会を増やすことで実践力を養っていく。



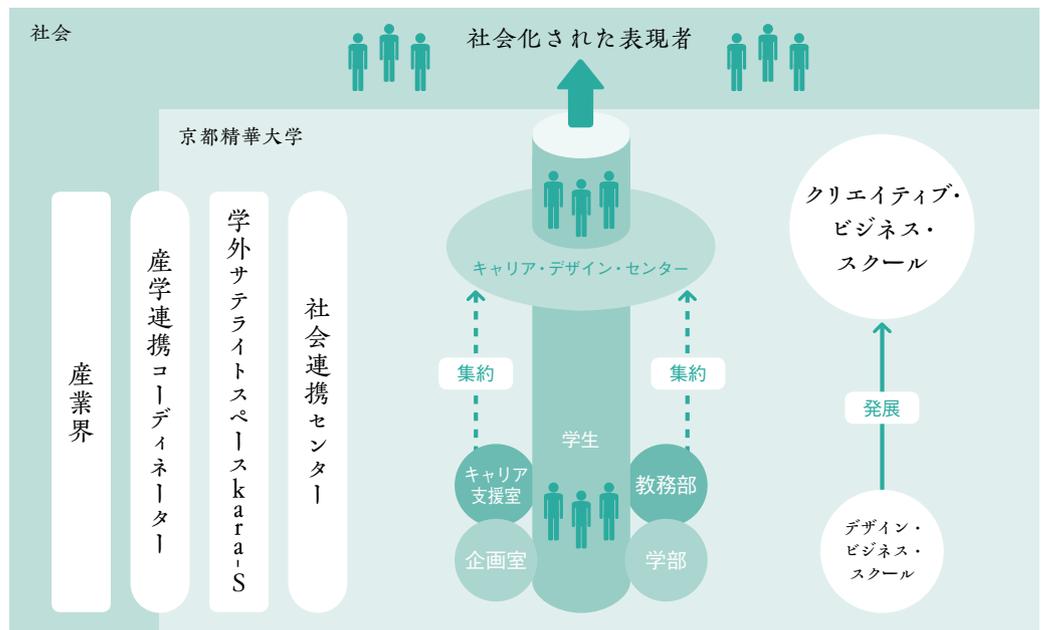
キャリア・デザイン・センターの設置

そして、それらの新規カリキュラムや産学連携の運営、実施、改善などを支援するために、大学の各部署をつなぐ組織として「キャリア・デザイン・センター」を開設する予定だ。学内の有機

的な連携を推進させることを目的とし、表現者の就業形態ニーズに合わせたきめ細やかなキャリアガイダンスを充実させ、就職実績の向上をめざす。

また、制作した作品を主軸に、成績や実績など一連の成果をWeb上に蓄積できる、表現者のための「ラーニングポートフォリオ」システム構築を行う予定もしている。

これらを通じて、社会的・職業的自立が可能な表現者の人材育成を行っていく予定だ。



News クリエイティブ・ラボ・プロジェクト 第3、4弾

世界的なデザイナー、映画プロデューサーが講師に

今年度からスタートした、本学の社会連携センターによる「クリエイティブ・ラボ・プロジェクト」が好評だ。

第3弾として行われたのは、『パッチギ!』『フラガール』を手がけた映画プロデューサー・李鳳宇氏のプログラム。「合作映画」をテーマに、李氏が教鞭をとる東京大学、早稲田大学、本学の3大学合同セミナーを9月に行った。さらには、そこで発表した学生考案の合作映画の

企画の中から3本を選抜し、10月下旬に開かれた釜山国際映画祭にて学生自らがプレゼンテーションする機会も設けられた。

また、イタリアの建築家・デザイナーであるセルジオ・カラトローニ氏の講義とワークショップを10月に開催。第1弾にも講師を務めたが、今回は化粧品のブランディングをテーマに行った。

講義のなかでカラトローニ氏は、自身が手がけた資生堂のブ

ランディングに頼らず、人の心を動かすデザインをすることが大切。この仕事は、アートというアプローチからビジュアルコンセプトを立てたことに大きな意味があった」と語った。

その後のワークショップでは、参加者が準備した空の化粧品パッケージを使って、ショップ空間までをデザイン。参加者らへのアドバイスとして、コンセプトのないデザインはないことを熱く伝えられていた。



セルジオ・カラトローニ氏



ランディングを例に、「冷淡なマーケティング

カラトローニ氏のワークショップにて参加者がつくった作品



李氏による3大学合同セミナー

News 杉井ギザブロー先生が文化庁映画賞を受賞

映画功労部門にて受賞

アニメーション学科の杉井ギザブロー先生が、平成22年度文化庁映画賞を受賞した。

「文化庁映画賞」とは、東京国際映画祭のなかで文化庁が、日本映画の向上とその発展を目的に、優れた文化記録映画作品及び顕著な業績を挙げた者に対して顕彰するもの。

杉井先生は映画功労部門において受賞。10月23日には六本木ヒルズにて授与式が行われた。



News 3 「東京デザイナーズウィーク2010」にて学校賞を受賞

3作品が個人賞も

10月29日から11月3日まで明治神宮外苑で行われた、「東京デザイナーズウィーク2010」。学生展にて、京都精華大学は学校賞と個人賞を受賞した。

今年の学生展のテーマは「絶滅危惧種」。学内審査を通過した9作品が京都精華大学の作品として出品。

絶滅危惧種をどう捉えるか、コンセプトに個性があらわ



れていた。

個人賞を受賞したのは、「ゆら木」「BLUE PLANET」「earth box—世界を変えるゴミ箱—」の3作品。フォルムの美しさや、機能性、発想のおもしろさを審査員から高く評価されていた。来年2月にはCOCON烏丸の「kara-S」にて展示会を行う予定。

News 4 人文学部が連続講演会を主催

総合人文学科開設2年目を記念して

人文学部が総合人文学科を開設して2年目になる今年、10月、11月に渡って4つの講演会を主催した。

環境、音楽、ジャーナリズム、国際性などさまざまな視点から社会を見つめ直す内容は、総合人文学科のもつ多様性を象徴しており、本学学生以外に一般の方からの参加も多くあった。

10月15日に行われたブラジル文化

の講演会では、明窓館にてライブも開催された。サンバやボサノヴァなどのブラジルの土地に根付いた音楽が演奏され、会場は和やかなムードで盛り上がりを見せていた。



News

京都国際マンガミュージアムが、入館者100万人を突破

文化庁メディア芸術祭の開催や、著名人を招いてのイベントなども

8月23日、京都国際マンガミュージアムの入館者が100万人を記録した。2006年11月の開館から3年9ヶ月での達成となった。

記念すべき100万人目となったのは、アメリカ・ロサンゼルスから家族と訪れた小学校6年

生。記念品として、養老孟司館長の直筆サイン色紙と似顔絵が贈呈された。

また、9月には「文化庁メディア芸術祭」京都展をマンガミュージアムにて開催。『海獣の子』『SARU』などで人気のマンガ家・五十嵐大介氏とマンガ

誌「IKKI」編集者らとのトークショーのほか、マリオ

の生みの親である任天堂の宮本茂氏と養老館長との対談も行われた。五十嵐氏が即興で絵を描いたり、宮本氏と館長がWiiで「スーパーマリオギャラクシー2」を協力プレイしたりと、単なるトークショーで終わらない企画に観客らは大いに盛り上がっていた。

そのほか、夏の特別展「フィギュアの系譜—土偶から海洋堂まで」のイベントとして村上隆氏や海洋堂所属のフィギュア原型師であるBOME氏を招いた

り、11月の開館4周年記念として、「コンテンツ社会における文化政策」をテーマに内田樹氏と養老館長との対談を企画したりと、話題性のあるイベントを数多く実施している。

このような特色のあるイベントや、文化庁のイベントの誘致などの結果、入場者数は年間30万人のペースで好調に推移。最近では海外メディアからの取材も増えており、ますます世界からの注目が広がっている。



五十嵐大介氏

BOME氏・村上隆氏

News

アSEMBリーアワー講演会

後期も著名なゲストが続々と来学

9/30

田中圭一さん

(最低シモネタお下劣パロディ漫画家・IT企業取締役)

竹熊健太郎先生

(マンガ学部教授・編集家)

鬼オギャグマンガ家でありIT企業のサラリーマンという、ふたつの顔を持ったクリエイター田中圭一さんと、本学のマンガ学部教員の竹熊健太郎先生が、デジタル時代のマンガ制作の可能性について対談。



手塚治虫さんの画風を極めた田中さんの作品のおもしろさや、マンガ家とサラリーマンのふたつの仕事を行うことが、制作を続けるためのモチベーションになっていることなどが語られた。

田中さんがいま勤める会社で開発に携わった新しいマンガ制作ソフトの紹介も。ストーリーを考えることができれば、絵が描けない人でもマンガが描けるという発売前のソフトを公開。マンガ制作に新たな可能性をもたらさそうだ。

10/22

横山裕一さん

(漫画家・美術家)

淡々と場面が進む独特の時間感覚と世界観をもったマンガや、原色の組み合わせが印象的なイラスト

トで知られる横山さん。大学で油絵を学んだのちにマンガ家になった経緯や、自身の作品や表現に対する考えが話された。

また、今までに影響を受けたという、雪舟や葛飾北斎、須田国太郎らの画集を見せながら、それらの作品の魅力についても、横山さん独特の視点と楽しみ方で語った。

講演後には来場者全員にうれしいサプライズが。横山さんのデザイン図やドローイングなどから、一人一点プレゼントされた。



10/27

アレッサンドラ・ファキネッティさん

(クリエイティブディレクター)

ハイファッションの世界で、デザイナーやクリエイティブディレクターとしてブランドイメージをつくってきたファキネッティさんを講師に迎え、近年勤めていたヴァレンティノとモンクレールでの仕事について話された。

今までに手掛けたオートクチュールやプレタポルテのコレクション制作風景などの画像をスクリーンに映し、仕事へのこだわりや取り組み方、これまでの仕事で得た経験や考えについて語った。学生からの質疑応答にも丁寧に答えていた。



6 国際マンガ研究センターの Webサイトが公開

マンガ研究活動を国内外に発信

「京都精華大学国際マンガ研究センター」はマンガとその周辺に関する研究機関。現在は京都国際マンガミュージアムを主な拠点として、展示のためのコンテンツ制作や講演、研究会などを開催している。10月に公開されたWebサイトでは、それらの報告のほか、マンガに関する国際的なセンターとしての活動情報を国内外に発信している。

本学では1973年度の美術科マンガクラス開設以来30年以上にわたる「マンガ」文化の教育・研究の蓄積から、国内外の学問としてのマンガ研究をリードしてきた。2001年度に開設した表現研

究機構マンガ文化研究所は、マンガとアニメーションに関する学術的研究を多角的に行い、研究基盤に必要な人的・情報ネットワークの形成を推進。これらの教育・研究実績やネットワークは、国際マンガ研究センターでも活用している。

京都精華大学
国際マンガ研究センター
<http://imrc.jp/>



11/18 藤原ヒロシさん

聞き手: 鈴木 哲也 (WEBマガジン「honeyee.com〈ハニカム〉」編集長)

DJ、ミュージシャン、デザイナーなどさまざまな顔を持つ藤原ヒロシさんと、聞き手に鈴木哲也さんを迎え、アートや世の中に流通するモノの価格についてのトーク。随時、観客へ挙手を求め意見を聞きながら話された。

これまでの自身の活動のスタンスについて「ラッキーな時代に、ラッキーにやってきた」という藤原さん。ひとつのことを一生懸命やることが美しいとされていた風潮が今よりも強かった時代に、いろんなことをやり、それが絡まりあって成功してきたのだと語られていた。



12/2 町田康さん

(小説家・パンク歌手)

「私が小説を書く理由」をテーマに町田康さんが講演。作者が問題としていることを読者が共有できることや、不確かであいまいな言葉を連ねていくことが小説を書くことのおもしろさだと話されていた。また、小説を書き始めたきっかけ、言葉へのこだわり、小説を書く技法などについて語られた。

質疑応答では、「小説が人から必要とされ続けるのはなぜ?」、「かなしいときに楽しいことが書けますか?」、「絵は描かないのですか?」、「ライブをやる予定は?」、といった質問に、質問者との会話を楽しみながら答えられていた。



Report

広島国際アニメーション フェスティバル

今年8月、広島市で第13回広島国際アニメーションフェスティバルが5日間にわたって開催された。この映画祭は、アニメーション専門の国際映画祭としては「世界4大メジャー」に数えられ、国内外のプロアマを含む多くのアニメーション作家が参加する。特に、新作を審査してグランプリを選出するコンペティションには、今大会では世界58の国と地域から過去最大となる1937本が出品された。日本からは293本が出品されたが、その中には美大などでアニメーションを学ぶ学生たちの作品が多く含まれ、広島フェスは、いわば新人作家の登竜門ともなっているわけだ。実際、この映画祭での受賞をきっかけとしてプロの道へ進んだ人も少なくない。

ただし、受賞への道は非常に厳しく、今大会の場合でいうと、出品作すべてが事前に一次選考にかけられ、大会本番での本審査枠に入ったのは、たったの57本だった。そこからグランプリなどの受賞作が決められるわけだが、出品総数との比較で考えると、本審査枠に入るだけでも大変なことだとわかる。

本学アニメーション学科の学生作品も3本出品されたが、残念ながら、いずれも一次選考の通過は果たせなかった。ただ、京都で毎



年開催されているイベント「ライブキッズ」のためのオープニングムービー「LIVE KIDS 2010」は、会場内の「エデュケーショナル・フィルム・マーケット」で公開された。この作品は、アニメーション学科の1～2回生20数名の共同制作作品である。また、観客として映画祭に参加した学生は10数名にのぼり、世界各国のアニメーションを見ることで、刺激的な体験になったものと想像される。

ちなみに、グランプリを受賞したのは、ノルウェーのアニメーション作家による「アングリー・マン」という、家族の問題をテーマとした20分間の短編だった。近い将来、本学の学生や卒業生の作品から受賞作が誕生することを期待したい。



津堅信之
(マンガ学部アニメーション学科准教授)

Report

客員・ゲスト講師による特別講義

様々な業界の現場を知ることができる貴重な機会となっている

9/14~16

村上もとか先生

マンガ学部客員教授



学生たちがあらかじめ書いておいたネームにチェックを入れ、1人ひとりにじっくりアドバイスを行った。自身の作品でも2ページ見開きで絵を描くことを事例に挙げ、セリフをコマに書きこみすぎないことや、コマの大きさを変えることで、読ませる工夫ができることを教えていた。

9/27

三宅克先生

マンガ学部客員教授



マンガ編集者の仕事について、「週刊少年サンデー」の編集者時代のエピソードを交え語った。マンガ家のタイプの見分け方、絵柄について、マンガ原作の描き方などを説明。また、今後については、月刊マンガ誌の創刊を予定してお

り、「マンガ界の“ヒーロー”をつくりたい」と話した。

10/8

大崎洋さん

吉本興業(株) 代表取締役社長



デザイン研究科の『創造領域特講』にて、お笑い芸人・ダウンタウンの育ての親と呼ばれる大崎氏が登壇。仲間を信頼して仕事に取り組んで来た姿勢や思いを語られた。なかでも、ダウンタウンの「笑い」を活かすために、小規模で空間を一つにできる『心斎橋筋2丁目劇場』をつくったという話は、劇場を例にしたメディア論でもあった。

10/8

中野晴行先生

マンガ学部客員教授



堀田純司さん

ノンフィクションライター



ノンフィクションライターの堀田さんをゲストに迎え、『電子書籍が築くかもしれない、新たな秩序』をテーマに対談。堀田さんが、出版社を介さずに刊行を実現した電子書籍「AiR エア」について触れ、新たな才能の発掘、育成を出版社が担う次代の終焉と、個人が作品発表する場があることを、改めて強く学生らに伝えられた。

10/16

本田直之さん

実業家、レバレッジコンサルティング(株) 代表取締役社長



ビジネス本のベストセラーを多数執筆している本田直之さんが講演。学外からも多くの人が集まった。本田さん自身、大学時代のアルバイトや遊びの経験が現在にも役立っていることから、自分の希望する職業につくためには、学生時代に興味のあることをとことん追求しておくことが大事だと話された。

10/23

塩田千春先生

芸術学部客員教授



本学洋画コースの卒業生でもある塩田さん。レクチャーでは、学生時代からの作品画像を見せながら、日本からドイツへの移住や、出産・病気を経験する中で行ってきた制作について語った。また、講演会後は芸術学部の選抜学生作品の公開合評会も。本館に展示した作品の前で、学生のプレゼンテーションを開き、丁寧に言葉を選びながら講評した。

10/23

黒川雅之先生

デザイン学部客員教授



プロダクトデザイナー・建築家として活躍する黒川先生の講演。リコーのカメラ、鉄瓶、金箔を貼った木皿、ゾウの形をしたイスなど、素材を大事にしているという仕事例を紹介しながら、「すべての道具は、人間の機能の延長線上、つまり機能を強化するためにある」と話した。

教員が綴る自身の近況 拝啓、卒業生のみなさんへ

From Teacher



長岡国人先生

長年私が生活したベルリンの〈壁〉が崩壊してから21年が過ぎようとしています。当時誰がこの事件を予測できたことでしょうか。それは突然やってきました。それは突然やってきました。それは突然やってきました。

1991年に私が京都精華大学の版画コースに着任してからも世界は様々な変動を続けております。そんな激動の時代に私はこの大学で仕事をし多くの学生達や職員と巡り会いました別れがありました。

ベルリンでもこの大学の卒業生達が次の時代を生きる芸

術家をめざして勉学に励んでいる姿に時々遭遇しました。京都から新たな世界に向けて彼らの活動範囲を広げているのです。人が時代や世界を変え、新たな価値観を生み出すのです。

私は今年度末でこの大学を退職しますが、自分の芸術の道を歩みながらも常に新たな世界を見据えて行きたいと思えます。



芸術学部教授。専門は銅版画。在籍21年。

服部静枝先生

2003年9月に京都精華大学に着任して7年が過ぎ、社会へ送り出した卒業生の数も増えました。「京都へ帰ってきた」とか「近くまで来たから」といって、ゼミの卒業生が研究室に顔を出してくれるのですが、社会人として成長した姿を見て、本当に嬉しくなります。そんな卒業生から、学生時代にもっとこんなことをしておけばよかった、という言葉をよく聞きます。でも、たいいていことは「今からでは遅い」ということはありませんし、時間は工夫してつくるもの。何かをやりたいと思

ったとき」がチャンスです。

さて、私の近況報告ですが、引き続き環境マネジメントシステム・環境監査を中心とした授業を担当しています。学外における社会活動としては、5年程前から中小企業へのCSR（企業の社会的責任）の普及策を模索中。また、京都の老舗企業と持続可能性についての調査も進めていきたいと思っています。



人文学部准教授。研究分野は環境マネジメント。在籍8年。

ソバットシアター

中田秀人^{さん} 美術研究科デザイン専攻 1998年卒業
 松尾憲樹^{さん} 美術学部ビジュアルコミュニケーションデザイン専攻 1997年卒業
 細井浩和^{さん} 人文学部 1998年卒業
 増田成朗^{さん} 美術学部洋画専攻 1995年卒業

平成21年度文化庁メディア芸術祭アニメーション部門で優秀賞を受賞、関西でもミニシアターで上映され話題になった「電信柱エレミの恋」。京都で2001年から8年の歳月をかけて完成させたストップモーションアニメ作品だ。電力工事作業員に恋をしてしまった電信柱「エレミ」の想いと葛藤が、ストップモーションの独特の動きで、少し懐かしい風景の世界に描かれ、心温まる作品に仕上がっている。

この作品を制作したのはソバットシアター。1998年に映像作家の中田秀人さんを中心として、造形技術師の松尾憲樹さん、細井浩和さん、増田成朗さんの4名で結成されたイ

ンディペンデント映像制作チームである。

監督・脚本を担当した中田さんは、この作品を自身が理想とするファンタジーを目指して描いたという。監督、脚本のほかにも撮影、編集、キャラクターデザインを担当。こだわりや、力を入れたことを聞くと、「全て」と自信を持って答えてくれた。

そんな中田さんの学生時代を聞いてみた。

「大学では、チームを率いて一つの作品を完成に向かわせるプロセスが良い経験になりました。それと、浪人時代の濃密な時間も現在の基礎になっているような気がしています」。

そして中田さんの思い描くファンタジーをかたちにしたのは

3人の造形技術師だ。

松尾さんがこだわったのは、人形の表情だ。セット照明の加減で、手元で見る実物のものとは違って来るため、その度に微細な調整を続け、監督がイメージするものに近づけた。また、人形の動きについては増田さんが「一つの形が完成しても終わりではなくて、可動式にしたり、連続した形を何個も作ったりする事が苦労する点です」と語った。細井さんは、長期間の撮影でカメラなどの機材が壊れてしまっ

た時のことを話してくれた。新しい物に変えると画質や色味が変わってしまうため、撮り直さざるを得な

くなるカットもあったそうだ。

「電信柱エレミの恋」を制作したことで、今までと変わらず続けるべき部分と、変えていくべき部分が見えたと言った中田さんは言う。ソバットシアターが次回作ではどんな変化を見せるか注目したい。

電信柱エレミの恋 (DVD)
 ボニーキャニオンより発売
 中 45分 / カラー /
 2010年 / 日本 / 発売元:
 ニューズベース 品番:
 PCBE-53710 / ¥3,990 (税
 抜価格 ¥3,800)



製作風景

活躍する卒業生

様々な業界で活躍する卒業生を紹介します

芸術学部テキスタイルコース 2007年卒業 cookieboy 夏山孟浩^{さん}

夏山孟浩さんが「cookie boy」を始めたきっかけは、友人の靴ブランドの展示会。友人が製作したブーツそっくりに焼き上げたクッキーをプレゼントしたことからだった。これが好評でオーダーが入るようになりcookieboyが始まった。名付けてくれたのも、その友人だ。展示会をしていたギャラリーのオーナーにも気に入られ、ギャラリーで展示販売もした。

まるで木工のおもちゃのよう

なクッキー。今では新聞や雑誌と各メディアに取り上げられ、ギフトやノベルティとしても巷でじわじわと人気を集めている。カラフルさが目を引くそのクッキーには、動物や身近なモノが独自のセンスで巧みに描かれている。「どこにもないデザインのクッキー。すべてオリジナルである事が条件です」と夏山さんは胸を張る。

しかし、こだわっているのは見た目だけではない。材料には全て国産のものを使用しており、おいしくて体に優しいもの

を作ろうという意識の高さが伺える。「見て楽しい、食べて美味しいものを作ることを目指しています。クッキーを見たときの“楽しい!”という笑顔が見たくて作っています」

学生時代はテキスタイルを専攻していた。デッサン力や、色彩、物の捉え方など、学生時代に養ったことがクッキーづくりに役立っているそうだ。専攻はシルクスクリーンで、その一色ずつ色を乗せて行く作業が、アイシングクッキーの制作過程とかなり似ている。「制作

に向かう気持ちは学生時代と変わらない」という。

cookieboyの活動は販売だけでなくとどまらず、ギャラリーでの展示やワークショップなども行っている。ショップやアーティストとのコラボレーションも展開。さらに活動の幅を広げるべく「見せるということについてもっと壮大な事がしていきたい」と意気込んでいる。

cookieboy
 URL <http://cookieboy.net>
 E-mail info@cookieboy.net
 TEL 03-5790-9105

Topics 1

2010年度卒業・修了制作展

芸術・デザイン・マンガの3学部と芸術研究科による卒業・修了制作展を行います。会場は2ヶ所。京都市左京区の岡崎公園内にある京都市美術館と、京都国際マンガミュージアムです。

また、京都市美術館別館1階では大学院芸術研究科・デザイン研究科の1年生修了展(M1展)も開催されます。

学生や院生たちの学びの集大成である制作展です。会期は5日間ですので、お見逃しなく、ぜひお立ち寄りください。



会期:2011年2月16日(水)~2月20日(日)

●京都市美術館

展示学部:芸術学部、デザイン学部、大学院芸術研究科(洋画・日本画・立体造形・版画・陶芸・ビジュアルデザイン・プロダクトデザイン・映像・建築・染織)
交通:市バス「京都会館美術館前」下車すぐ。または地下鉄東西線「東山駅」下車徒歩10分。

●京都国際マンガミュージアム

展示学部:マンガ学部、大学院芸術研究科(カートゥーン・ストーリーマンガ)
交通:地下鉄烏丸線・東西線「烏丸御池駅」下車、2番出口から烏丸通を北へ50m



Topics 2

2010年度卒業式・2011年度入学式

2010年度卒業式、2011年度入学式を下記の日程で予定しています。

●2010年度 学位記授与式

日時...2011年3月21日(月・祝)
9時30分開場 / 10時開式
場所...本学体育館
※地下鉄「国際会館駅」より
スクールバスを運行します。
お車でのご来場はご遠慮ください。

●2011年度 入学式

日時...2011年4月1日(金)
9時開場 / 10時30分開式
場所...国立京都国際会館イベントホール
※地下鉄「国際会館駅」から徒歩5分。
お車でのご来場はご遠慮ください。



Topics 3

「セイカ未来図鑑」オープン

12月より大学Webサイトに新しいコンテンツ「セイカ未来図鑑」をオープンしています。卒業生のインタビューなどを掲載しております。ぜひご覧ください。

<http://www.kyoto-seika.ac.jp/mirairukan>

Topics 4

「田舎で働き隊!」研修員募集

農林水産省の農村活性化人材育成派遣支援モデル事業「田舎で働き隊」の事業実施主体に京都精華大学が選定されました。本学では、農山村の活性化に関心のある方を研修員として募集しています。研修員には月額140,000

円の研修費が支払われます。

詳細は本学Webサイトをご覧ください。

担当 社会連携センター(担当:石山)
TEL 075-702-5343
E-mail ishiyama@kyoto-seika.ac.jp

●お詫びと訂正

前号に以下の誤植がありました。お詫びして訂正します。
木野通信50号 P.5 2009年度決算および、2010年度予算について
2009年度決算について 3行目
(誤)約71億44万円
→(正)約71億4千万円

訃報

クントン・インタラタイさん

本学人文学部教員のクントン・インタラタイ先生が、2010年10月5日(火)朝にご逝去されました。先生には1982年4月1日から2010年9月30日まで専任教授として人文学部の教育にご尽力いただきました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

ご支援下さるみなさまへ ~ご寄付のお願い~

様々な支援に関して、ご寄付のご協力をお願いしております。「学生奨学金制度への支援」、「学生生活への支援」、「文化振興活動への支援」、「国際交流活動の支援」、「教育・研究設備整備事業への支援」より寄付用途を選んでいただき、みなさまのご意向にかなう運用をしています。お申し込みは、銀行窓口、もしくは、インターネット上でのクレジットカード決済にてご寄付いただけます。

この寄付金は、文部科学省から「特定公益増進法人であることの証明書」の交付を受けており、税金控除の優遇措置を受けることができます。

詳細につきましては寄付募集Webサイト、リーフレットをご覧ください。

●寄付募集Webサイト

<http://www.kyoto-seika.ac.jp/donate>

●お問い合わせ

京都精華大学企画室寄付募集担当

TEL : 075-702-5201 / FAX : 075-702-5391

kikaku@kyoto-seika.ac.jp

Kino Press No.51 Kyoto Seika University

木野通信 第51号
2010年12月15日発行

京都精華大学入試広報部広報課
〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137
TEL 075-702-5197

<http://www.kyoto-seika.ac.jp>

「木野通信」送付先住所の変更は企画室・木野会事務局 kinokai@kyoto-seika.ac.jpまでご連絡ください。